

発明の名称

細胞遊離法、細胞遊離液、細胞培養法、細胞培養液、細胞液、細胞液製剤、細胞定着法及び細胞定着液

～損傷の無い培養細胞を迅速に得る技術～

発明者

石井 利明（帯広畜産大学）

技術概要

細胞培養液中（血清を5～20%の濃度範囲で含む）において接着性動物細胞（神経細胞又は神経幹細胞）を担体の表面に接着させた状態で培養し、その後ラクトフェリンを含む細胞遊離液と細胞培養液を混合して担体から接着性動物細胞を遊離させる細胞遊離法について、細胞遊離液は、細胞培養液と混合した時のラクトフェリンの濃度が10～500 μ Mとなる濃度で含んでいることを特徴とします。細胞の浮遊と定着の機構の制御を解明することにより、ヒトや動物の生体組織を再生させる用途に適用できる可能性があります。

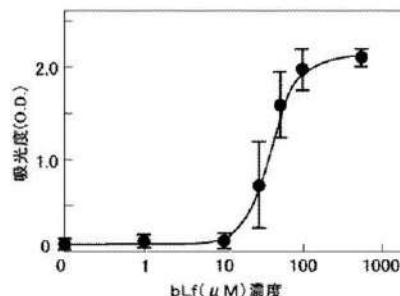
発明の目的

実験・研究に合わせて細胞を利用するために、接着性動物細胞を浮遊状態で正常に培養増殖させ、培養増殖させた接着性動物細胞を再び定着させる方法を得ることです。

効果

培養させた接着性動物細胞を担体から損傷無く剥離させることができます。また、損傷の無い正常な細胞を迅速且つ大量に得ることができます。さらに、培養細胞を容易に輸送運搬できます。

図面



ウシラクトフェリン(bLf)は濃度が10 μ Mを超えるとPC12細胞の培養皿上への接着を阻害し、細胞を遊離・浮遊させる作用を有する。

詳細はこちら

工業所有権情報・研修館のサイトに移動します

出願・登録

出願日

2006/01/19

設定登録日

2011/04/22

存続期間満了日

2026/01/19